

## 文化資源6選（岩舟）

①	名 称	村檜神社	場 所	小野寺
	選考理由	本殿は国指定文化財、社叢は市指定文化財であり、大変貴重であるため。		
	概 要	<p>創建は孝徳天皇の御宇 大化二年（646）と伝えられ、譽田別命を主祭神、熊野大神、大山咋命を配神とする。佐野庄小野寺十郷の総鎮守として崇敬され、のち平城天皇の御宇大同2年（807）に皆川村小野口に鎮座せる八幡宮を当社に合祀、主祭神と仰ぐ。醍醐天皇の御宇延喜年間には勅命により、延喜式内社に加列し、下野國式内三之宮として今もなお崇敬されている。本殿は室町時代後期の建物とされ、三間社春日造、屋根は檜皮葺にして国の重要文化財の指定を受けている。</p> <p>○村檜神社社叢 境内で杉の大木や希少生物や植物が自生しており、市指定文化財となっている。</p>		
②	名 称	大慈寺	場 所	小野寺
	選考理由	日本の仏教の歴史において大きな役割を果たした慈覚大師円仁の修業した寺であり、複数の県指定・市指定文化財があり大変貴重であるため。		
	概 要	<p>本尊は薬師如来である。天平9年（737）建立の古い寺であり、若き円仁が修行した寺である。現存する文化財は以下のとおりである。</p> <p>○奥の院（市指定文化財） ○相輪櫓（県指定文化財） 弘仁6年（814）最澄は全国6カ所に相輪宝塔を建立し、1千部の法華経をおさめた。これは仏法を住持し国家の鎮護を祈るためのものであり、天台宗の北方流布の拠点とされたものである。</p> <p>○慈覚大師堂（市指定文化財） ○銅製華鬘（県指定文化財） ○聖観音菩薩坐像（県指定文化財） ○手香炉（市指定文化財）</p>		
③	名 称	小野寺禅師太郎通綱ゆかりの地	場 所	小野寺
	選考理由	小野寺城主とされ、ゆかりの史跡が多く存在し貴重であるため。		
	概 要	<p>小野寺氏は小野寺義寛を祖とし、平安時代後半に源氏譜代の家人として源為義より下野国都賀郡小野寺七ヶ村を与えられ、称したのが始まりと言われている。小野寺通綱は征夷大将軍源頼朝の信任厚く、以降も歴代将軍に近侍している。小野寺城主となったとされる。</p> <p>○小野寺禅師太郎通綱の墓（市指定文化財） ○住林寺阿弥陀如来坐像（県指定文化財） 小野寺氏一族ゆかりの寺であり、通綱の菩提が祭られている。阿弥陀如来坐像は、左手を膝上に置き、右手を前に出して掌を見せ偏組右肩の袖衣を着て右足を上に結跏趺坐する。来迎印の阿弥陀如来である。桧材、漆箔、玉眼である。像は螺髪を刻出し、面相は伏目のおだやかな目鼻立ちであり、衣文の彫りも浅く整った表現など平安末の特色がある。しかし引き縮った両頬、小さ目ながら掘り口の鋭い唇、豊かな肩の張りなど新しい時代への様式も目につく。関東の地では最も古い彫眼像とされる。</p> <p>○小野寺城跡</p>		

④	名 称	慈覚大師円仁ゆかりの地	場 所	上岡、下津原
	選考理由	日本の仏教の歴史において大きな役割を果たした円仁のゆかりの史跡であり、大変貴重であるため。		
	概 要	<p>円仁は9歳から大慈寺で学び、15歳で比叡山で最澄の弟子となり、854年比叡山延暦寺天台座主となる。9年間の中国での旅行記である入唐求法巡礼行記はマルコポーロの東方見聞録をしのぐといわれ、仏教のみならず政治・文物・民俗にも及び、貴重な資料と評価されている。</p> <p>上岡には円仁の母の墳墓、下津原には円仁の産湯に使った水をくみ上げたとされる井戸が現存する誕生の地がある。</p> <p>○慈覚大師御母公墓 ○慈覚大師誕生の地</p>		
⑤	名 称	高勝寺	場 所	静
	選考理由	複数の県指定・市指定文化財があり大変貴重であるため。		
	概 要	<p>江戸時代に盛んになった地藏信仰が関東一円に広がり、紀州徳川家との係わりが深い寺。年中を通し、特に彼岸の参詣者は多く、広範に及び。関東の高野山とも言われている。</p> <p>○三重塔（県指定文化財） 県内に存在する3つの三重塔のひとつ。（日光山輪王寺・益子町西明寺）</p> <p>○山門（県指定文化財） 1742年（享保2年）再建。規模の大きさでは県内一といわれている。正面の両脇には金剛柵を設けて、中に仁王門那羅延金剛と和庄塚婆が安置されている。</p> <p>○鐘楼（県指定文化財） 江戸時代の建造とされ、岩舟石をもって袴腰を造るなど他に例をみない特徴ある建物で、同時代の建築を知る上で貴重な遺構である。</p> <p>○西院の河原堂（市指定文化財） ○大仏（市指定文化財） ○燈籠（市指定文化財） ○下野州岩船山縁起 真名本、岩船山地蔵菩薩縁起絵巻 仮名本&lt;附:七条袈裟額装、山門扁額&gt; （市指定文化財）</p>		
⑥	名 称	岩舟石産業遺産	場 所	鷲巣、静、豊岡
	選考理由	岩舟石の採石場跡地、岩舟石が使われた岩舟駅舎等周辺一帯は岩舟の基幹産業として町を支えた採石業の産業遺産として大変貴重であるため。		
	概 要	<p>西暦1670年の作とされる「岩船山縁起絵巻」にも岩舟石採石の様子が描かれていることから分かるように、採石は古くからおこなわれており、かつては岩舟の一大産業であった。現在採石はされていないが、以下の場所で岩舟石産業の一端を知ることができる。</p> <p>○石の資料館 ○岩舟駅舎 ○岩舟人車鉄道跡 ○採石場跡地(クリフステージ)</p>		